

身体障害者診断書・意見書〔免疫機能障害用〕

総括表

(13歳未満用)

氏名	生年月日	年 月 日 () 歳	男 女
住所			
1 障害名(部位を明記)			
2 原因となった 疾病・外傷名		交通、労災、その他の事故、戦傷、戦災、 自然災害、疾病、先天性、その他()	
3 疾病・外傷発生年月日		年 月 日・場所	
4 参考となる経過および現症(エックス線および検査所見を含む。)			
		障害固定または障害確定(推定) 年 月 日	
5 総合所見			
		(将来再認定 要・不要) 次期再認定日 年 月)	
6 その他参考となる合併症状			
<p>上記のとおり診断する。併せて以下の意見を付す。</p> <p>年 月 日</p> <p>病院または診療所の名称</p> <p>所 在 地</p> <p>診療担当科名 科 医師氏名 (印)</p>			
<p>身体障害者福祉法第15条第3項の意見(障害程度等級についても参考意見を記入)</p> <p>障害の程度は、身体障害者福祉法別表に掲げる障害に</p> <ul style="list-style-type: none"> ・該当する(級担当) ・該当しない 			
<p>注意 1 障害名には現在起っている障害、例えば両眼視力障害、両耳ろう、右上下肢麻痺、心臓機能障害等を記入し、原因となった疾病には、緑内障、先天性難聴、脳卒中、僧帽弁膜狭窄等原因となった疾患名を記入してください。</p> <p>2 歯科矯正治療等の適応の判断を要する症例については、「歯科医師による診断書・意見書」(別様式)を添付してください。</p> <p>3 障害区分や等級決定のため、地方社会福祉審議会から改めて次頁以降の部分についてお問い合わせする場合があります。</p>			

ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能障害の状態および所見(13歳未満用)

1 HIV感染の確認日および確認方法

HIV感染を確認した日 年 月 日

小児のHIV感染は、原則として次の(1)および(2)のいずれかの検査により確認される。(2)についてはいずれか1つの検査による確認が必要である。ただし、周産期に母親がHIVに感染していたと考えられる小児で検査時に生後18か月未満のものについては、さらに以下の(1)の検査に加えて、(2)のうち「HIV病原検査の結果」または(3)の検査による確認が必要である。

(1) HIVの抗体スクリーニング検査法の結果

	検査法	検査日	検査結果
判定結果		年月日	陽性 陰性

(注) 1 酵素抗体法(ELISA)、粒子凝集法(PA)、免疫クロマトグラフィー法(IC)等のうち1つを行うこと。

(2) 抗体確認検査またはHIV病原検査の結果

	検査名	検査日	検査結果
抗体確認検査の結果		年月日	陽性 陰性
HIV病原検査の結果		年月日	陽性 陰性

(注) 2 「抗体確認検査」とは、Western Blot法、蛍光抗体法(IFA)等の検査をいう。

3 「HIV病原検査」とは、HIV抗原検査、ウイルス分離、PCR法等の検査をいう。

(3) 免疫学的検査所見

検査日	年 月 日
IgG	mg/dl

検査日	年 月 日
全リンパ球数(①)	/ μl
CD4陽性Tリンパ球数(②)	/ μl
全リンパ球数に対するCD4陽性Tリンパ球数の割合([②] / [①])	%
CD8陽性Tリンパ球数(③)	/ μl
CD4/CD8比([②] / [③])	

2 障害の状況

(1) 免疫学的分類

検査日	年 月 日	免疫学的分類
CD4陽性Tリンパ球数	/ μ l	重度低下・中等度低下・正常
全リンパ球数に対するCD4陽性Tリンパ球数の割合	%	重度低下・中等度低下・正常

(注)4 免疫学的分類の欄は、「身体障害認定基準」6ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能障害(2)イの(イ)による程度を○で囲むこと。

(2) 臨床症状

次の臨床症状の有無(既往を含む。)について、該当するものを○で囲むこと。

ア 重度の症状

指標疾患が見られ、エイズと診断される小児の場合は、次に記載すること。

指標疾患とその診断根拠	

(注)5 「指標疾患」とは、「サーベイランスのためのHIV感染症/AIDS診断基準」(厚生省エイズ動向委員会、1999)に規定するものをいう。

イ 中等度の症状

臨床症状	症状の有無
30日以上続く好中球減少症(<1,000/ μ l)	有・無
30日以上続く貧血(<Hb 8g/dl)	有・無
30日以上続く血小板減少症(<100,000/ μ l)	有・無
1月以上続く発熱	有・無
反復性または慢性の下痢	有・無
生後1月以前に発症したサイトメガロウイルス感染	有・無
生後1月以前に発症した単純ヘルペスウイルス気管支炎、肺炎または食道炎	有・無
生後1月以前に発症したトキソプラズマ症	有・無
6月以上の小児に2月以上続く口腔咽頭カンジダ症	有・無

反復性単純ヘルペスウイルス口内炎(1年以内に2回以上)	有・無
2回以上または2つの皮膚節以上の帯状疱疹 ^{ほうしん}	有・無
細菌性の髄膜炎、肺炎または敗血症	有・無
ノカルジア症	有・無
播種性水痘 ^は	有・無
肝炎	有・無
心筋症	有・無
平滑筋肉腫	有・無
HIV腎症	有・無
臨床症状の数 [個] …… ①	

(注)6 臨床症状の数の欄には、「有」を○で囲んだ合計数を記載すること。

ウ 軽度の症状

臨床症状	症状の有無
リンパ節腫脹(2箇所以上で0.5cm以上。対称性は、1箇所とみなす。)	有・無
肝腫大	有・無
脾腫大 ^ひ	有・無
皮膚炎	有・無
耳下腺炎	有・無
反復性または持続性の上気道感染	有・無
反復性または持続性の副鼻腔炎	有・無
反復性または持続性の中耳炎	有・無
臨床症状の数 [個] …… ②	

(注)7 臨床症状の数の欄には、「有」を○で囲んだ合計数を記載すること。